

# 熊本SJCD例会抄録 (2018.4.24)

## i. 表題

歯性不正咬合 要抜歯症例の治療と効果

## ii. 発表者氏名 所属機関

川口 孝 川口歯科医院

## iii. 略歴

1991年 長崎大学歯学部卒業

1996年 川口歯科医院開設

## iv. 所属団体

日本臨床歯科医学会 熊本支部

## v. 抄録本文

近年の歯科口腔領域における、カリエス罹患歯数の減少、欠損歯数の減少は目覚ましいものがあり、それゆえ特に若い歯科医師の興味は、重度の欠損補綴から、有歯顎における歯列・歯牙の保全へと移行しつつある。

カリエスや歯周病に罹患しない健全な歯列を維持する、あるいは修復補綴治療後の歯列の長期予知性を確保するためには、不正咬合の要素を取り除き、個性正常咬合を確立することが重要であり、そのための歯科矯正治療への知見向上は大卒後早期から取り組むべき課題の一つである。

今回、Angle 分類に基づき、歯性不正咬合で要抜歯と診断した3症例、①Angle Iの25歳女性、②Angle II div.1の23歳女性、③Angle IIIの35歳女性について、当院における実際の経過を供覧し、口腔内の変化、口腔周囲、顔貌の変化について呈示する。